

環境重視型大学キャンパスの創造に向けて

国立大学法人愛知教育大学の環境報告書を2006年度に発行して以来、三年目の報告書です。本学は、2003年度に制定した愛知教育大学憲章において「愛知教育大学は、豊かな自然環境を保全活用し、施設設備を含む教育研究環境の整備充実を図るとともに、障害者にもやさしい大学づくりを進める。」と高らかに宣言し、この憲章の精神を生かし、2004年度からの国立大学法人化に際し、第一期中期目標として「本学の豊かな自然を生かし、人にやさしいキャンパス環境作り」を進め、「豊かな自然環境を生かした環境重視型大学を目指し、環境と安全に配慮できる持続可能な未来社会実現のための教育研究に努める。」として、この目標達成のために4年間取り組んできました。本報告書は、本学の2007年度における環境配慮の活動の総括であると同時に、4年間のまとめの環境報告書でもあります。

この間、水光熱費をはじめ、様々なエネルギーの節約に取り組んできました。水光熱費では、2007年度は2004年度比で、電気では3.5%、ガスでは、19.5%、水道では、23.3%、冬の暖房等に使用する重油は、16.4%のいずれについても減少することができました。

二酸化炭素排出量では、電気・ガス・重油で2004年度には、5057トンの排出量でしたが、2007年度には、384トン（マイナス7.5%）のCO₂削減を達成できました。ご存じのように、1990年比で、マイナス6%が、我が国が2008年～2012年に達成すべき目標値です。通勤通学に使用する自家用車からの排出量が3200トン程度ありますので、これを加えれば、まだ4.5%の削減ですので、マイナス6%の目標を達成するために、本学も取り組みを強化しなければなりません。

2010年には名古屋でCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）が開催されます。本学でも専門家の立場から貢献する教員もいます。また、キャンパスクリーンデー、あるいは学生が中心に行っているリサイクル市、農学を専門とする教員の指導のもとに取り組んでいる壁面緑化の試みなど、すでにいくつかの取り組みが始まっています。本学としても、こうした取り組みを拡大させていくとともに、具体的な数値目標を設定し、目標達成に向けてのロードマップを作成し、その実現に向けて動き出さなくてはなりません。

EU諸国は、具体的な数値目標をもとに、その達成に向けた取り組みについて国を挙げて推進していますが、日本ではまだまだ遅れています。こういう状況だからこそ、大学が率先して、数値目標を立て、取り組むことで、社会をリードできると思います。そのためにこの環境報告書が役に立てば幸いです。



学長 松田 正久



2007節約キャンペーンで応募のあったポスター

参考資料 環境省「環境報告書ガイドライン（2007年版）」

対象組織 愛知教育大学全キャンパス

対象期間 2007年4月～2008年3月

発行期日 2008年9月

次回発行予定 2009年9月

URL <http://www.aichi-edu.ac.jp/shokai/johokokai>

[/kankyoreport.html](#)

作成部署・お問い合わせ先

愛知教育大学保健環境センター・財務部施設課
〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1
TEL0566-26-2193 FAX0566-26-2190(センター)
TEL0566-26-2159 FAX0566-26-2150(施設課)
e-mail kankyo-h@auecc.aichi-edu.ac.jp

※環境報告書へのご意見・質問を歓迎します。回答等は上記ホームページに随時公表します。